

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200103		
法人名	医療法人社団厚仁会		
事業所名	医療法人社団厚仁会 グループホームこうじん		
所在地	香川県丸亀市松屋町11番地1		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirjyosyoCd=3790200103-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成25年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅から徒歩5分の位置にあり、ご家族様はじめ、来訪者にとって便利な場所にあります。ほぼ毎日、どなたかのご家族様や知り合いの方が訪れています。丸亀城が近くにあり、気分転換に出かけています。また、商店街に接しており、気軽にお買い物や散歩に出かけられます。通所リハビリテーションが併設しており、そちらの利用者様とついに、季節の行事やレクリエーションを行っています。協力医療機関が隣接しており、24時間体制で、医療・看護が受けられ、安心してお過ごしいただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、平成23年に開設した比較的新しいグループホームで、丸亀駅から徒歩5分の商店街に位置している。ほぼ毎日のように家族の面会があり、また商店街に散歩や買い物に出かけたり、自治会の集会で職員が認知症の説明をするなど、家族や地域との交流を大切にしている。
新しい事業所ではあるが、勉強会を定期的に行い、専門知識・技術の向上に努め、また常に自分たちのケアを振り返るなど、サービスの質は高く、かつ安定している。そのことは、職員の離職率の低さや介護計画の出来映え、マニュアル類の整備状況などからもうかがえる。また、関連病院の医師の協力を得ながら看取り介護にも取り組んでいる。今後も管理者を中心にチームワークを大切に、さらなるサービスの質の向上を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「安心、笑顔、気配り」の介護が実践できるよう、職員同士ミーティングや日頃の声のかけあいを行っています。それを通じて、全職員が利用者様の希望に沿えるサービスが提供できるよう努めています。	事業所の設立時に職員全員で話し合い、「安心・笑顔・気配り」という理念を作った。「気配り」という言葉に、地域への気配りを忘れないようにという想いを込めている。理念を忘れないよう、申し送りの際に、自分たちの対応や声かけ等を振り返ったり、月に1回は事務スタッフが加わることで、客観的な視点で、利用者との関係が慣れ合いになっていないかどうかをチェックするなどしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	もともとホームのご近所で長年暮らして来られた入居者様が多く、よくご近所の方も訪ねて来られ、交流を続けています。少し離れた所の出身の方も、その地域の公民館の活動への参加を続けています。	商店街に日用品等を買に行き、その際に挨拶を交わしたり、自治会の集会で職員が認知症について説明をすることで、地域における認知症に対する理解を深めてもらうなど、地域との交流を積極的に図っている。また、事業所向かいの保育園からは、クリスマスや敬老会のときに園児が来園してくれている。事業所として、地元のごみ当番や回覧板等を回すなど、文字通り地域の一員として活動しており、これからも、もっともっと事業所から地域に出て、地域に貢献したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症についてお知らせし、地域における認知症への理解をしていただけるよう努めています。また、介護サービスへの連携の仕方等についても、地域の介護力の向上に寄与できればとお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、日頃の取り組みについて報告し、地域の行事等についても教えていただき、それに参加する等、サービスの実施において、ご意見を活かしています。	2か月に1回開催している。家族・利用者をはじめ、自治会からも出席がある。当初、出席者から意見が出ずに苦労したが、最近は少しずつ意見が出てくるようになってきた。地域の参加者からは、事業所のレクリエーション、イベント等に対して、協力できる旨の申し出をいただいている。	運営推進会議で、自己評価や外部評価結果、また、目標達成計画を報告し、参加者に意見を仰いだり、モニター役になってもらうなど、会議と外部評価が結び付く取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	丸亀市高齢者支援課の担当職員と2か月に1度のグループホーム連絡会において話し、協力関係をつくっています。また、随時、サービスや運営の方法についても連絡をとらせてもらっています。	市の担当者には、不明な点があれば積極的に連絡するようしており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて、身体拘束についての正しい理解ができるよう取り組んでいます。また、個別のケースを検討し、拘束につながらないケアができるよう努めています。	月に1回、職員全員が参加する勉強会において、身体拘束をテーマとしてとり上げることで、理解を図っている。玄関の施錠を含め、身体拘束の事例はない。言葉による拘束など、身体拘束に該当するか否か判断の難しいケースについては、勉強会で事例検討をしている。	現在は、身体拘束に該当する事例はないが、今後、生命保護等により緊急やむを得ない理由により、身体拘束を実施する際の手続きについて、確認しておくことが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて虐待の防止について学ぶとともに、虐待につながらないよう、職員のケアについてもよく話をし、丁寧な対応を心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の権利擁護に関する情報を、福祉の雑誌の定期購読等を通して行っていますが、用語や文章が難解なこともあり、理解は不十分です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧に内容を入居者様、ご家族様にご説明し、理解していただけるよう努めています。また、随時、ご質問もお受けし、詳細にお知らせするように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者様のご家族が頻りに面会に来ていただけており、その都度、現状をご報告し、ご意見をいただいています。また、運営推進会議においても、ご家族の代表の方に出席していただき、お話をいただいています。	面会が比較的多く、職員から利用者の状況を報告することで、ご家族が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。投書箱を設置しているものの、投書はいまだかつてない。管理者としては、本当に家族が気兼ねせず、何でも意見を言える雰囲気づくりができてきているのか、さらに確信が欲しいと考えている。	まずは、家族が意見を言いやすいかどうか確認し、その上で、職員から意見が出ているアンケートの実施を含めて、より家族から率直に意見を出してもらえるような具体的な方法を検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、毎月の勉強会やミーティング時に意見交換し、よりよい運営、介護につなげていけるようにしています。	管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけており、職員ヒヤリングからもそのことがうかがえた。管理者としては、職員同士のコミュニケーションの質を高め、チームワークをよくしたいと考えている。また、法人の理事である系列病院の医師が週に2回来て、その際に職員は直接意見を聞いてもらえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の代表者と管理者の会議において、また随時の状況報告や話し合いを通じて、よりよい職場環境が作れるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会以外にも、外部での研修に参加を促しています。経験の少ない職員については、経験ある職員がアドバイスをを行い、スキルアップにつながるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丸亀市のグループホーム連絡会に出席したり、認知症実践者研修を受けて他事業所との接点を持つ、サービスの質の向上につながるようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前から、ご自宅や入院先をご家族等の許可をいただいて訪問し、接する機会を持たせていただき、ご要望を伺って、信頼関係が築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族についても、こちらから事前に訪問させていただいたり、ホームに来ていただいて、サービスについて丁寧に説明し、ご要望を伺うよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を伺うとともに、現状について把握し、必要と思われるサービスの提案をその都度行い、他のサービス事業所とも連携し、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、時には職員が入居者様からアドバイスをいただいたり、話を聞いてもらう等しています。その方に寄り添い、日々の生活を送れるようこころがけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、外出の付き添いや行事に参加していただき、介護の内容についても提案していただき、協力して支援していけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居する以前から通っていた公民館での趣味活動に引き続き参加したり、プライバシーに配慮しながら、ご家族の意見も聞きながら、ご近所の方にホームに訪れていただく等しています。	担当職員を決めて、本人としっかり話をしたり、家族から話を聞くなどして把握している。入居前に併設の通所リハビリに通っていた利用者が、引き続き、友人とつながりを継続できるように、時々通所リハビリを訪問するなど、本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないよう取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちにならないよう、適宜声をかけて、共有のホールでリラックスして過ごせるよう気をつけています。その中で入居者様同士の関係が築けるよう援助しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等した場合でも、ご家族にお会いしたり、許可してもらい、伺う等しています。その後の変化に応じて、他のサービス等と連携し、必要と思われる支援が行われるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない会話や行動等を把握・記録し、職員間、あるいはご家族と話をしながら、ご希望を把握できるよう努めています。カンファレンスを行い、具体的な介護につなげるようにしています。	担当職員を通して、普段の会話や利用者の行動から把握に努めている。また、研修会や勉強会で、利用者の思いや意向をより把握するためにはどうすればいいか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション等で昔の話、思い出話が自然にできるようにしたり、ご家族と面会時に話す等して生活歴を把握し、ホームでの生活がその方にとって、よりよいものとなるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、バイタルチェックを行い、心身の状態を把握し、職員間、ご家族と情報の共有ができ、きめ細かい対応ができるよう心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が、担当の入居者様の毎月の状況について書類を作成し、日々の申し送りやカンファレンス、担当者会議を通じて、ケアの内容、方法について話をし、介護計画につなげられるようにしています。	アセスメントにセンター方式の様式を活用して、本人の意向をきめ細かく把握し、また家族からも意見を聞き、職員の視点を加えて計画を作成している。月に1回、モニタリングを行い、3か月ごと、または状態が変化した時などに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録とともに毎月、気がついたことを書類に記入し、申し送りやカンファレンスにおいて情報の共有を図り、その方にとり、よりよい介護へとつながる計画となるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院や通所サービスと連携し、行事や運動等、ホームのみでは難しいことを協力して行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が通い慣れた公民館での活動を継続したり、近くのお城や公園に出かけています。お祭り等の行事に参加したり、保育園からの訪問を受けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院と連携して、ご家族の協力も得ながら、希望される治療が受けられ、安心できるように努めています。	協力医療機関を受診している利用者が多いが、それ以外の医療機関についても必要に応じて、職員が通院支援を行っている。受診後の家族への説明については、電話や面会の際に報告したり、主治医から家族に直接電話で説明することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、看護師が入居者様の状態を把握しています。適宜、受診を受けたり、体調への対応についてアドバイスを受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者と連絡を取り、随時訪問するなどして、状況の把握に努めるようにし、スムーズにホームへお帰りいただいたり、サービスについての情報が、本人様、ご家族様に知らされるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化した場合の事についてお話をさせていただき、ホームとしての対応についても丁寧にご説明し、本人様、ご家族の希望を把握するようにしています。また地域のかかりつけ医とも連絡を取り合っています。	契約時に意向調査を行い、重度化や終末期にさしかかった際に再度、意向を確認している。看取りはすでに1例経験しており、今後も医師の意見を聞きながら、利用者の状態に応じて、事業所での看取りにも対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やマニュアル・連絡体制の確認や訓練を定期的に行い、急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて定期的に訓練を行っています。運営推進会議や自治会を通じて、緊急時の連絡体制や支援のあり方等の話し合いをさせていただいています。	年に2回、火災訓練を実施し、うち1回を総合訓練としている。訓練では水消火器を使って消火訓練を実施している。緊急時、地域において協力してもらえる関係者の連絡先も把握している。	まずは、夜間の火災を想定して、職員だけの誘導の限界を具体的に確認しつつ、近隣住民や系列病院との協力関係を構築し、かつ実際に訓練に参加してもらうことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者おひとり、おひとりの人権について十分認識して接することができるよう、職員同士声をかけたり勉強会で確認したりしています。人生の先輩としても、尊敬の念をもって対応できるよう心がけています。	勉強会などで、具体的な事例を検討したり、「自分たちも同じ立場になったらどう感じるか」という視点で考えることで、一人ひとりの人格を尊重するように努めている。 また、排泄場面でも、安全を確保しつつ、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リラックスして希望を表しやすいよう、表情や態度を工夫するようにしています。日常、衣・食・環境において、入居者様ご自身で選択ができるよう声をかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族の協力も得ながら、生活歴やどのように過ごしたいか、ご希望をできる限り把握し、例えば起床時間やお昼寝の時間等、それに沿った過ごし方ができるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、あるいは外出時でも、入居者様ご自身ができる限り選択し、ご自分で行える場合は、できるだけご自分で身なりを整えていただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、片づけ等、できることを安全に気をつけながら、行っていただいています。実際に行う内容が不十分で形だけであっても、参加しているという意識や、楽しいと感ぜられるようにしています。	献立は関連病院の栄養士が立てており、食事はほぼ調理された状態で事業所に運ばれる。利用者の能力に応じて、食事の準備や後片づけ等の作業を一緒に行っている。 食事の時間は利用者と職員が同じものを食しながら団欒し、楽しい時間となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握を行い、食事の形状や自助具等を工夫しています。内容についても栄養士等と話し合いをし、入居者様、ご家族の意見も伺いながら、メニューや栄養についてよりよいものになるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをその方に合わせて行っています。適宜歯科の訪問受診を受けて治療していただいています。その際、ケアのアドバイスも受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて、状況を把握しています。その方の状態に合わせて、できるだけトイレで行っていただけるよう、安全に気をつけながらお手伝いしています。	チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することで、オムツ使用の軽減やできるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事で食物繊維がとれるよう、栄養士の協力を得ながら対応しています。運動や十分な水分摂取もこころがけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を選択していただくようにしています。入浴までの声かけ、誘導を工夫し、気持ちに配慮しながら、気分よく入浴していただけるようにしています。	入浴は週2回実施し、曜日は決まっている。来客や病院受診、またその日の状態に合わせて、入浴時間は柔軟に対応している。普段、無口な方でも、入浴の際にはよく喋ってくれるので、できるだけ声かけしながらリラックスして入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣について、ご家族の協力も得ながら把握するようにし、その日の体調にも気をつけながら、眠れるよう、日中の活動についても考えながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容のファイルをつくり、使用している薬について把握できるようにしています。バイタルチェックとともに、表を用いて確実な服薬を確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族とお話して生活歴について把握したり、日常の何気ない会話やレクリエーションで昔話をする等、気軽にリラックスして普段の生活の楽しみにつながるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得たり、併設の通所サービスと協力して外出し、気分よく日常を過ごせるようにしています。近所の商店街やお城等の地域資源を利用しています。	天気がいい日は毎日散歩したり、1月に1回程度は乗用車で外出している。これまでに、丸亀城や桃陵公園、番の洲のバラ園などに行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の商店街へ買い物に行ったり、ご家族の付き添いで、お店で買い物をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望で電話をかけたり、受けたりしています。携帯電話も持っている方もおり、かけるのをお手伝いすることもあります。同様に手紙のやりとりもお手伝いします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物をフロアに置いたり、ホームのまわりに植えたりしています。季節を感じられるような飾りつけをしています。窓の開閉、空調の調節を適宜行っています。	広々としたホールには、天窗から自然光が差し込み、また観葉植物や日本人形などが適度に配してある。また、ソファと大型テレビが置かれ、会話やテレビ観賞などを思い思いに楽しむことができる。不快な音や光などの刺激はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいすの位置を工夫し、他者との交流ができたり、ひとりでゆっくり過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や収納の家具を居室に置いていただいています。家族の写真を飾ったり、家族と話して、テレビや音楽のプレーヤー等を置いています。	居室は、床はフローリングで、壁は白を基調に、シンプルかつ清潔感のある空間となっている。それぞれ、使い慣れた家具や家族の写真などを持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にできるだけ自分で動いていただけるよう手すりを設置したり、場所が明確に分かるよう標識をつけたりしています。		